

東商オリパラ・アクションプログラム

2017年12月14日



東商オリパラ・アクションプログラム(全体像)

【基本方針】 大会組織委員会・東京都・政府等が主体となる活動に対して連携・参画していくことに加えて、オリンピック・パラリンピックを契機として、東商ならではの強みを活かした独自の活動を展開し、会員企業・地域にレガシーを形成する。

東商オリパラ・アクションプログラム

東商独自の活動

第1の柱

「東商のレガシー形成を見据えた独自の活動展開」

2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、大会後の会員企業や地域でのレガシー形成を見据えて、4つのテーマについて東商独自の活動を展開する。

- テーマ1 「東京のホスピタリティを世界に発信する」
- テーマ2 「地域の魅力・文化を世界に発信する」
- テーマ3 「中小企業の底力を世界に発信する」
- テーマ4 「2020年大会に向けて、東京が抱える課題を解決する」

大会への参画・協力

第2の柱

「地元経済団体としての2020年大会への参画・協力」

大会組織委員会、東京都、政府等が実施主体となる活動に参画・協力すること、あるいは必要に応じ提言・要望することにより、大会成功に寄与する。

- 「東京2020応援プログラム」認証取得事業の積極的な実施
- 「beyond2020プログラム」の活用促進
- 会員企業への情報提供
- 「ビジネスチャンスナビ2020」の普及促進
- ボランティア、聖火リレー、大会関連施設視察等
- 23支部における積極的な区との連携

第 1 の柱『東商のレガシー形成を見据えた独自の活動展開』
テーマ 1 : 「東京のホスピタリティを世界に発信する」

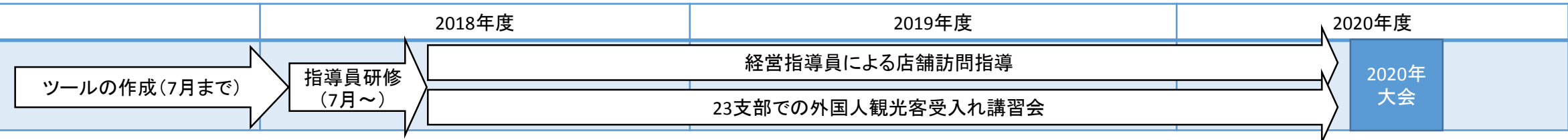
1. 東商は、2020年に向けて、 店舗での外国人観光客の受入対応力向上を全力で支援します。

※東商は、2020年訪日外国人4,000万人に向けて、地域や店舗での外国人観光客の受入れ対応力の向上に取り組めます。

- 専門の研修を受けた東商の経営指導員が、飲食業・小売業・サービス業等の店舗を訪問。
- 訪問時に、「外国人接客マニュアル」「指でさして会話ができるシート」「外国人歓迎の店ステッカー」を持参し、使い方を丁寧に説明。
- 東商の23支部で、「外国人観光客受入れ講習会(初級・上級編)」を開講。

<上記の実施に向けて>

- ◎東商の全経営指導員(161名)を対象に、店舗への指導内容について専門のマニュアル(初級編、上級編)を作成のうえ研修
- ◎「外国人接客マニュアル」「指でさして会話ができるシート」「外国人歓迎の店ステッカー」は、昨年11月に世田谷支部が作成した好事例を23区全体で展開
- ◎23支部で外国人観光客受入れ対応に関する講習会(初級編、上級編)を企画・実施
※講習会を受講した店舗(企業)については、東商ホームページで店舗情報をPR



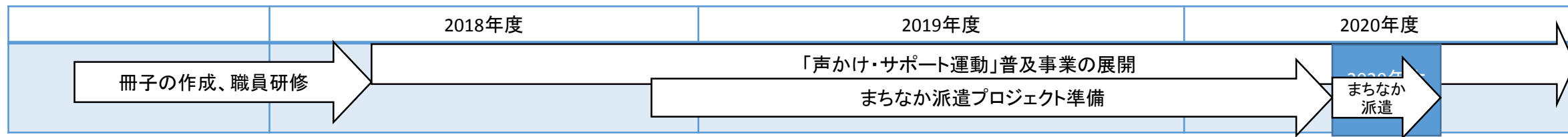
2. 世界で初めて、2回目のパラリンピックを開催する都市として、東商は、共生社会の実現と、誰もが快適に過ごせる地域社会の実現に向けて、『声かけ・サポート運動』を積極展開します。



※『声かけ・サポート運動』とは、高齢者や子ども、妊婦、子ども連れの方、障がい者、外国人をはじめ、街なかなど様々な場面で困っている人や助けが必要な方に、積極的に「声かけ」をすることで、誰もが安心・安全・快適に暮らし過ごせる地域社会の実現に向けて、東商が2015年から推進している運動です。

- 声かけ・サポート運動が対象としている方々（高齢者や子ども、妊婦、子ども連れの方、障がい者、外国人等）への接し方のポイントを冊子にまとめ、「声かけ・サポート運動」を企業に広く普及。
- 障がい者・外国人へのサポートの仕方について、体験型の講習会や親子で参加できるイベント等を開催し、アクションに繋がる活動を積極展開。
- 大会期間中、「声かけサポーターまちなか派遣プロジェクト」を実施。

＜上記の実施に向けて＞ ◎JR東日本・日本民営鉄道協会との連携、東京都との連携、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携、声かけサポート運動賛同企業との連携、大学・専門学校との連携、競技会場所在地商工会議所・商工会との連携
◎東商役員・議員・支部役員のご協力（関係先への普及） ◎東商全職員に「声かけ・サポート運動」研修の実施



3. 東商は、『パラスポーツを知る・体験する・応援する』事業を展開し、パラリンピックの機運醸成とスポーツを通じた心のバリアフリー推進に取り組めます。

※東商は、「パラリンピックの成功なくして2020年大会の成功はない」との認識のもと、以下の活動に取り組めます。

- 【知る】パラスポーツの競技種目・ルール・見どころ、用具製造企業等をPR。
東京都パラスポーツファンサイト「TEAM BEYOND」の普及。
- 【体験】会員企業従業員の家族・子どもが参加できるパラスポーツ体験会・ボッチャ大会を開催。
- 【応援】パラスポーツ観戦ツアーを実施等。

≪23支部における活動≫※23支部での活動内容は東商オリパラ専用ホームページ(開設予定)にて紹介

※支部ごとに各区の実情に応じて、パラスポーツの体験会・観戦ツアー、機運盛り上げイベント等を実施
例) ①区が実施する事業への連携・協力、②支部独自(又は複数支部合同)企画の事業実施、③本部紹介可能事業の活用(日本障がい者スポーツ協会「ジャパンパラ競技大会」観戦ツアー、日本財団パラサポセンター「あすチャレ運動会」「パラスポーツ体験会」等)、④支部青年部による運営等

- <上記の実施に向けて>
- ◎パラリンピック(オリンピック)に関係(用具製造、アスリート雇用等)のある会員企業を調査・東商の活動への協力依頼
 - ◎健康づくり・スポーツ振興委員会との連携
 - ◎女性会、青年部(本部)との連携

	2018年度	2019年度	2020年度
	23支部における活動		
	体験会・ボッチャ大会(本部)	体験会・ボッチャ大会(本部)	2020年大会

テーマ 2 : 「地域の魅力・文化を世界に発信する」

4. 東商は、2020年大会を契機として、 23区の魅力・文化を発信する『るるぶ TOKYO23』を発行します。

※東商は、2020年大会を契機に各地域の観光資源を磨き上げ、「るるぶ TOKYO23」の日本語版(3万部～)、英語版(1万部～)を作成し、23区の魅力・文化を国内外に発信します。

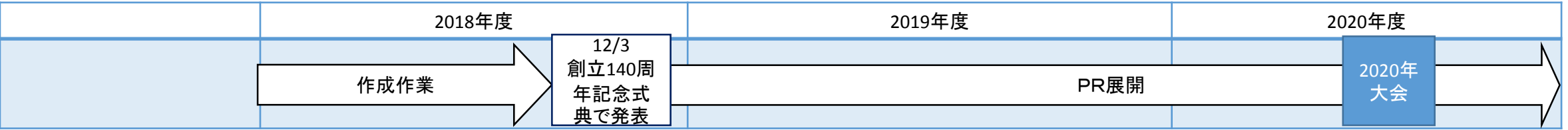
- 見る(区を跨いだ街歩きコース)、食べる(東京産食材・ご当地グルメ)遊ぶ(祭り・エンターテインメント)、産業など、23区の魅力を掲載。
- Web版を東商HPで公開。新東商ビルでも情報発信。
- 訪日外国人観光客を対象に、「QRコード付きPRカード」を主要観光施設・案内所で配付。
- 海外向け訪日観光情報Webサイトにリンク。在日外国商工会議所等へPR。
- 2020年以降も、23区の魅力・文化発信ツールとして更新しながら活用。



※イメージ

＜上記の実施に向けて＞

- ◎観光委員会との連携（観光委員会で行ってきた「地域の宝ネット」の素材(ストック約170件)の活用等）
- ◎日本政府観光局(JNTO)、東京観光財団等、観光関連団体との連携
- ◎他事業との連携（「外国人歓迎の店ステッカー」「指でさして会話ができるシート」の紹介、「私が選ぶ『東京のここが(これが)好き』事業」とのコラボレーション等）



5. 東商は、東京の経済人・著名人140人が選ぶ『東京のここが(これが)好き』を発信します。

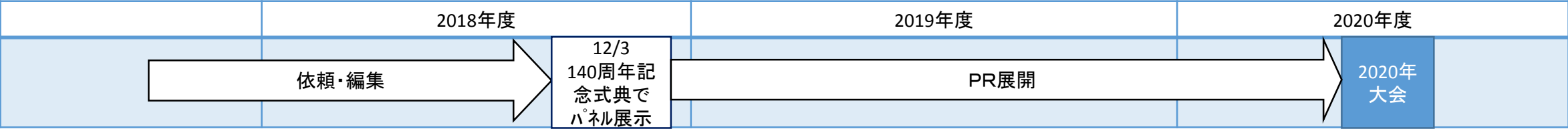


創立140周年記念
事業との連携事業

※東商は2018年に創立140周年を迎えます。発信力のある東京の経済人・著名人140人に東京の好きな場所(風景)・モノを選んでいただき、2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向けて、東京の魅力を国内外に発信します。

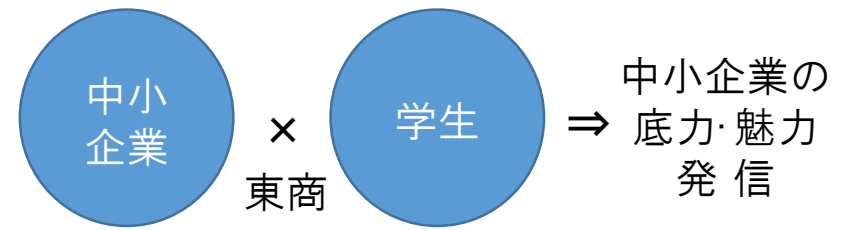
- 東京の経済人・著名人(外国人を含む)140人の東京の好きな場所・モノを写真とコラム(好きな理由)で紹介。
- 新東商ビル竣工にあわせてパネル展示。東商ホームページでもPR。
- 『るるぶ TOKYO23』(日本語版、英語版)で「東京のここが(これが)好き」セレクションを紹介。

＜上記の実施に向けて＞
◎組織委員会との連携（140周年記念事業との連携）



テーマ3：「中小企業の底力を世界に発信する」

6. 東商は、2020年に向けて、次代を担う大学生・専門学校生による『中小企業の底力・魅力発信プロジェクト』を実施します。

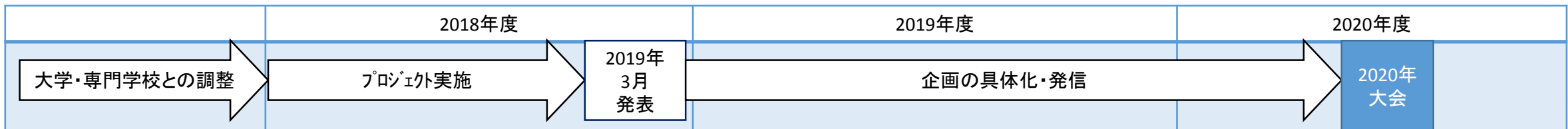


※東商は、2020年に向けて、東京の中小企業の底力・魅力を国内外に発信するP R施策を、中小企業と大学生・専門学校生とともに考え・企画する産学連携プロジェクトを実施します。

- 学生が、中小企業の底力・魅力を「発見する」機会を創出。
※中小企業の底力・魅力を発見するために、東商が学生と中小企業をつなぐ。
- 学生と中小企業経営者が一緒に「中小企業の底力・魅力とは何か」を考え、学生の柔軟な感性と視点から、P R施策を企画。
- 東商と大学・専門学校が連携し、授業のカリキュラムとして本プロジェクトを実施。
- 学生のP R企画を、2020年に向けて東商が具体化し国内外に発信。

＜上記の実施に向けて＞

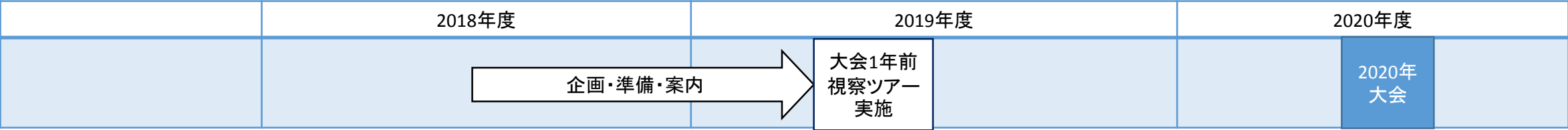
- ◎大学・専門学校との連携
- ◎学生のP R企画発表の場として、2019年3月(オリンピック開会式500日前)に、学生と中小企業の底力・魅力を考えるイベントを開催
- ◎P R企画内容を具体化し、東商のP R媒体に加え、関係機関と連携のうえ国内外に発信



7. 東商は、在日外国商工会議所、在日大使館関係者、外国人記者を対象に、『東京の産業・中小企業の魅力視察ツアー』を実施します。

※日本在勤・在住の親日派・知日派の外国人に、東京の産業・中小企業の魅力をPRし、理解をより深めていただくとともに、母国への発信や日本における外国人ネットワークの中で発信していただくことを目的としています。

- 大会の1年前に視察ツアーを開催。
- 視察ツアーを通じて、「首都東京には多様性に富んだ多くの産業集積があること」、「東京には伝統・匠・先端技術など魅力ある中小企業が多数あること」等を発信。
- 視察終了後、「外国人から見た東京の産業の魅力」について意見交換。



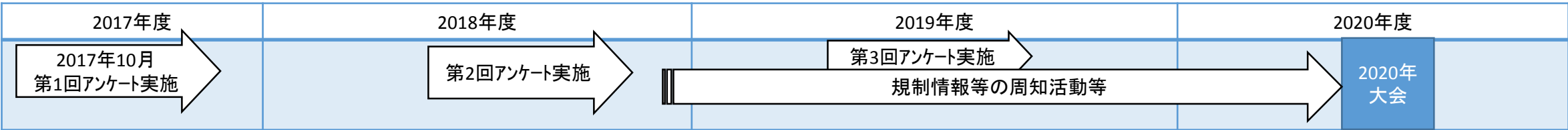
テーマ 4 : 「2020年に向けて 東京が抱える課題を解決する」

8. 東商は、大会期間中の交通緩和・輸送円滑化に貢献します。 東商は、大会を契機とした働き方改革(時差Biz等)を推進します。

※東商は、1964年の東京大会の際にも都内交通規制に協力し、大会期間中の交通緩和に貢献しました。
2020年大会は、競技会場の多くが通勤・物流等の交通需要が集中する地域に立地しており、大会の成功のためには、「大会関係者の円滑な輸送」と「経済活動の安定」の両立を図ることが必要です。

- 交通輸送円滑化に関する会員企業アンケートを毎年実施。
※2012年ロンドン大会の際、交通混雑回避に有効であった、時差出勤やテレワーク等の取組み・交通行動の見直しについて、会員企業の現状や課題等を把握。関係機関への情報提供や提言を実施。
- 「輸送運営計画」「規制情報」の新着情報を、セミナー等により企業にタイムリーに周知。
- 東京都と連携し「時差Biz」等、働き方改革を会員企業に普及。

<上記の実施に向けて>
◎ 東京都・政府・大会組織委員会の輸送関係会議等との連携



第2の柱『地元経済団体としての2020年大会への参画・協力』

東商は、地元経済団体として、
大会組織委員会・東京都・政府等が実施主体となる活動へ参画・協力
すること、あるいは必要に応じ提言・要望することにより、
2020年大会の成功に寄与します。

1. 既に取組んでおり、今後も継続・強化するもの

○「東京2020応援プログラム」認証取得事業の積極的な実施（大会組織委員会）

- ・大会組織委員会の「東京2020応援プログラム」の認証を取得し、
「東京2020応援マーク」を使用した大会の機運盛り上げやレガシー
創出に資する事業を積極的に展開します。



※東商はこれまで35事業で「東京2020応援プログラム」の認証を取得(2017年10月末現在)

- 「外国人おもてなし語学講座(東京都との共催事業)」
- 「2020年に向けたビジネスチャンス発掘交流会」
- 「外国人接客マニュアル活用セミナー」
- 「おもてなし規格認証活用セミナー」
- 「健康ウォーキング」
- 「輸送運営計画V1説明会」
- 「トップアスリートの支援・雇用に向けた企業説明会」等

- 「beyond 2 0 2 0プログラム」の活用促進（政府(内閣官房)）
 - ・非スポンサー企業も使用可能な「beyond 2 0 2 0プログラム」の活用を促進し、日本文化の魅力発信に寄与します。
- 「ビジネスチャンスナビ 2 0 2 0」の普及促進（東京都等）
 - ・中小企業のビジネスチャンス拡大に向けて「ビジネスチャンスナビ 2 0 2 0」の普及促進に取り組みます。
- 東商主催会員向け会議・イベント等で、ポスター・のぼり・うちわ・はっぴ等を活用した大会機運の醸成
- 23支部における区との連携（区が主体となる事業等への積極的な対応）



- 会員企業へ大会関連情報等をタイムリーに提供（大会組織委員会、東京都等）
 - ・これまで「大会開催基本計画説明会」「東京都、政府の取組説明会」「アクション&レガシープラン説明会」「『調達コード』『ビジネスチャンスナビ 2 0 2 0』説明会」「輸送運営計画 V I 説明会」等を開催。



2. 各機関との連携や政策提言・要望を通じ、参画・協力を検討していくもの

- ボランティア、聖火リレー、大会関連施設の視察等